

シマムセンオーディオ試聴会 (2023.6.10)

—真空管アンプ・アナログ試聴会—

1. はじめに

シマムセン CYMA で開催された真空管アンプ・アナログの試聴会に行ってきました。

2. 参加企業およびスケジュール

開催要項は、下記のとおりで6月10日(土) 11:00~12:00 と 6月10日(土) 13:00 ~14:00 のプログラムに参加しました。



日時：6月10日(土) 11:00~18:30

6月11日(日) 10:00~16:00

会場：シマムセン別館 CYMA 2F

参加企業

有限会社上杉研究所 / エイ・アンド・エム株式会社 / 株式会社エレクトリ / 協同電子エンジニアリング株式会社 / ズートコミュニケーション合同会社 / 高槻電器工業株式会社 / 株式会社タクトシュトック / 株式会社トライオード / 有限会社フューレンコーディネイト / ラックスマン株式会社 (敬称略)

イベントスケジュール

2023年6月10日(土) 11:00~18:30

会場 A (CYMA 202)	時間	会場 B (CYMA 201)
有限会社 フューレンコーディネイト	11:00~ 12:00	エイ・アンド・エム株式会社 ズートコミュニケーション合同会社
高槻電器工業株式会社	13:00~ 14:00	協同電子エンジニアリング株式会社

ラックスマン株式会社	14:30～ 15:30	株式会社エレクトリ
株式会社トライオード	16:00～ 17:00	株式会社タクトシュトック
有限会社 上杉研究所	17:30～ 18:30	----- --

2023年6月11日(日) 10:00～16:00

会場 A (CYMA 202)	時間	会場 B (CYMA 201)
株式会社トライオード	10:00～ 11:00	株式会社タクトシュトック
有限会社 上杉研究所	11:30～ 12:30	株式会社エレクトリ
有限会社 フューレンコーディネイト	13:30～ 14:30	エイ・アンド・エム株式会社 ズートコミュニケーション合同会社
ラックスマン株式会社	15:00～ 16:00	協同電子エンジニアリング株式会社

※高槻電器工業株式会社は6月10日(土)のみ参加

2. 試聴の経過

参加した6月10日(土)11:00～12:00のプログラムでの使用機材は以下のとおりです。

エイ・アンド・エム / ズートコミュニケーション 使用機材



ブランド名	機種	種別
-------	----	----

TRANSROTOR	ZET-3 TMD	アナログプレーヤー
ANALOG RELAX	AR-MCC-EX1000	カートリッジ
AIRTIGHT	ATE-3011	フォノイコライザー
AIRTIGHT	ATH-3s	MC 昇圧トランス
AIRTIGHT	ATC-7	真空管プリアンプ
AIRTIGHT	ATM-3211	真空管パワーアンプ
YG Acoustics	Hailey 2.2	スピーカー

参加した 6 月 10 日(土) 13 : 00~14 : 00 のプログラムでの使用機材は以下のとおりです。

高槻電器工業株式会社 使用機材



ブランド名	機種	種別
YAMAHA	GT-5000 B	アナログプレーヤー
Ortofon	MC-DIAMOND	カートリッジ
Ortofon	EQA-2000	フォノイコライザー
LUXMAN	CL-1000	真空管プリアンプ
TAKATSUKI	TA-S01	真空管パワーアンプ
TANNOY	CANTERBURY/GR	スピーカー

協同電子エンジニアリング 使用機材



ブランド名	機種	種別
Technics	SP-10R	アナログプレーヤー
GLANTZ		トーンアーム
PHASEMATION	PP-5000	カートリッジ
PHASEMATION	PP-2000	カートリッジ
PHASEMATION	PP-500	カートリッジ
PHASEMATION	PP-200	カートリッジ
PHASEMATION	EA-1200	フォノイコライザー
PHASEMATION	T-2000	昇圧トランス
PHASEMATION	T-550	昇圧トランス
PHASEMATION	CM-2200	真空管プリアンプ
PHASEMATION	MA-2000	真空管パワーアンプ
B&W	802D4 B	スピーカー

1) エイ・アンド・エム / ズートコミュニケーションの試聴経過

遅れて入り、最後の 10 分ほど試聴しました。

再生されていたのは、女性ボーカル 2 曲とロックで、ハイエンド調のスピーカーを力任せに駆動するような印象でした。クラシックが聴けなかったのでアナログシステムと真空管アンプの組み合わせの真価を評価するにいたりませんでした。今風の曲の再生で、ハイエンドスピーカーを真空管アンプで駆動できるということのデモンストレーションのようでした。



2) 高槻電器工業株式会社の試聴経過

最後の方少しだけ試聴しましたが、ジャズやロック調の曲の再生でしたので、アナログシステムと真空管アンプの組み合わせの真価を評価するにいたりませんでした。タンノイをタンノイらしく真空管アンプで駆動することを期待していたのですが、期待はずれでした。



3) 協同電子エンジニアリングの試聴経過

一番長く時間をとってじっくり聴くことができました。

参加者の希望により、開始前ではありましたが、カートリッジの PP-2000 と PP-5000 の比較試聴がありました。ムターのカルメン幻想曲では、音の切れ味もムターのヴィブラートの効いた弦の艶も後者の方がワンランク上の印象です。PP-5000 のままでゲルギエフ指揮の春の祭典の再生もありましたが、B&W802D4 B の問題か、中低域の濁りが気になりました。

機器の解説は PP-5000、EA-1200、CM-2200、MA-2000 についてありました。

PP-5000 は人造ダイヤモンドのカンチレバーに天然ダイヤモンドの針先をセットしており、天然ダイヤモンドの選別に苦勞するとのことでした。EA-1200 は、LCR 仕様でのイコライザーで左右独立の躯体ですが、電源も追加して左右独立電源にでき、実際にデモが

ありました。CM-2200 はパッシブアテネーターですが、ゲインを上げることができる仕様になっています。MA-2000 はドライバー管の 2A3 と 300B パラシングルの間はトランス結合になっているとのことでした。

カートリッジと PP-2000 に戻し、女性ボーカル、SS 誌のリファレンスレコード、バツラフ・ノイマン指揮のボヘミアンマーチ、ギターとアルコ奏法のコントラバスのデュオなどが再生されました。

女性ボーカルの再生で EA-1200 の電源追加のデモがありましたが、音に余裕はでるものの音質的なメリットは感じられませんでした。ボヘミアンマーチは中欧の牧歌的な表情を期待したのですが、迫力はあるものの、少しうるさい感じがしましたので、スピーカーの問題だと思われます。ギターとコントラバスのデュオは曲名の解説がありませんでしたが、聴いたことがあるフレーズなので確認したら、ベートーヴェンのピアノソナタ 14 番でした。編曲と演奏が音の綾を狙ったもののようで、原曲の味わいが消えていました。

ここで夏川りみの再生で、PP-2000 と PP-5000 の聴き比べになりましたが、PP-5000の方がより自然でニュアンスが掴みやすい印象でした。

この時点で他室に移りましたが、PP-5000 のポテンシャルを確認できたものの、スピーカーの問題と音源の選択で、アナログを真空管アンプで聴くという醍醐味は得られませんでした。



4. まとめ

アナログと真空管アンプシステムの総合的な試聴会ということで期待をもって参加しましたが、再生音源に馴染みのないものが多く、それらの真価を測りかねるところがありました。フェーズメーションでは、少しばかりのクラシックの音源で PP-5000 など、全システムのポテンシャルの高さを部分的に確認できました。

以上